

なぜ、理系に女子が少ないのでしょうか。OECD（経済協力開発機構）が平成27年（2015年）に実施したPISA調査（生徒の学習到達度調査）によると、科学的リテラシー及び数学的リテラシー[※]は、日本の男子は女子に比べて得点、正答率ともに高くなっていますが、国際的に見ると、日本の女子は点数が悪いということはなく、むしろ、諸外国の女子及び男子よりも高くなっています。（図3）

しかしながら、先に述べたように、大学等における理工系分野の女子割合は低く、また、女性研究者の割合も諸外国と比べると低い水準にとどまっています。特に研究者の大半を占める工学分野及び理学分野の研究者に占める女性の割合は大学等の研究本務者で12.6%と低い水準になっています。このように理系に女子が少ない理由のひとつは、女子の理数科目の学力不足ではなく、周囲の女子の進学動向、親の意向、ロールモデルの不在等の環境が影響していると考えられます。

そうしたことから、当センターでは中学生向けに「理系進路応援講座」を開催し、進路を決める前に、理系女子大学院生などロールモデルと接し、実験の楽しさにふれる講座を実施しました。

※PISA2015年調査においては、科学的リテラシーは「思慮深い市民として、科学的な考えを持ち、科学に関連する諸問題に関与する能力」、数学的リテラシーは「様々な文脈の中で数学的に定式化し、数学を活用し、解釈する個人の能力」と定義されている。

(図3) OECD生徒の学習到達度調査 (PISA) 2015年調査の結果

	日本			OECD平均		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
科学的リテラシー平均得点	538点	545点	532点	493点	495点	491点
科学的リテラシー正答率	58%	60%	57%	—	—	—
数学的リテラシー平均得点	532点	539点	525点	490点	494点	486点
数学的リテラシー正答率	54%	56%	53%	—	—	—
読解力平均得点	516点	509点	523点	493点	479点	506点
読解力正答率	63%	62%	65%	—	—	—

2015年 点数	日本	韓国	ノルウェー	英国	ドイツ	米国	OECD 平均	2015年 点数	日本	韓国	ノルウェー	英国	ドイツ	米国	OECD 平均
男子	539	521	501	498	514	474	494	男子	545	511	500	510	514	500	495
女子	525	528	503	487	498	465	486	女子	532	521	497	509	504	493	491
男女差	14	-7	-2	12	17	9	8	男女差	14	-10	3	1	10	7	4

(備考) 1. 国立教育政策研究所「生きるための知識と技能 OECD生徒の学習到達度調査 (PISA) 2015年調査国際結果報告書」(平成28年12月)及び「理工系分野における女性活躍の推進を目的とした関係国の社会制度・人材育成等に関する比較・分析調査報告書」(平成28年度内閣府委託調査・公益財団法人未来工学研究所)より作成。
2. 表の平均得点及び差は整数値に丸めた値であり、表中のそれぞれの得点差とは必ずしも一致しない。

(参考: 令和元年版男女共同参画白書より一部抜粋)



2 当センターにおける学びの多様性

「学び」とは、学校教育や仕事のための資格取得の勉強だけを指すものではなく、家庭生活に活かすためや、趣味などの創造的活動及び人生を豊かにするための活動も含まれます。

当センターでは、性別や年齢に関わらず、多様な「学び」のために、今後も様々な講座を企画し、開催します。ぜひ、広報誌やちらしなどをご確認いただき、ご参加ください。



男性向け子育て講座
～ベビーマッサージ～



男性向け家事講座



女性向け再就職支援講座



女性向けリーダーシップ講座